

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成25年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成25年4月24日（水）

3 調査対象

第6学年

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| ① 国語A | 116人 | 国語B | 116人 |
| ② 算数A | 116人 | 算数B | 116人 |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導改善のポイント」などの分析を併せて記載した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語A（知識）の平均正答率は全国平均より高い。正答数の分布状況は全国と比べ、12問と15問（66％と83％）の割合が高い。
- ・国語B（活用）の平均正答率は全国平均より高い。正答数の分布状況は全国と比べ、6問～9問（60％～90％）の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	57.8	42.2	43.2
	書くこと	4	55.4	53.2	53.0
	読むこと	3	69.8	61.7	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	15	65.7	62.7	62.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	45.7	45.5	44.9
	話す・聞く能力	1	57.8	42.2	43.2
	書く能力	4	55.4	53.2	53.0
	読む能力	3	69.8	61.7	60.1
	言語についての知識・理解・ 技能	15	65.7	62.7	62.6
問題形式	選択式	7	76.5	68.1	66.3
	短答式	10	60.3	60.9	61.9
	記述式	1	45.7	45.5	44.9

【国語B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.7	66.1	64.8
	書くこと	4	42.7	44.0	43.8
	読むこと	4	57.3	49.5	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特 質に関する事項	1	66.4	64.9	63.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	40.5	43.7	42.5
	話す・聞く能力	3	70.7	66.1	64.8
	書く能力	4	42.7	44.0	43.8
	読む能力	4	57.3	49.5	47.9
	言語についての知識・理解・ 技能	1	66.4	64.9	63.8
問題形式	選択式	3	69.8	61.0	59.7
	短答式	5	50.7	46.7	45.9
	記述式	2	40.5	43.7	42.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率は57.8%で全国平均より14.6ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は70.7%で全国平均より5.9ポイント高い。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は55.4%で全国平均より2.4ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は42.7%で全国平均より1.1ポイント低い。
⇒● 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことに課題がある。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率は69.8%で全国平均より9.7ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は57.3%で全国平均より9.4ポイント高い。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- A 領域の平均正答率は65.7%で全国平均より3.1ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は66.4%で全国平均より2.6ポイント高い。

国語に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 国語に関する9つの質問のうち、7つについて、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高い。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。」と肯定的に答えた割合が、全国平均より6.9ポイント低い。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。」と肯定的に答えた割合が、全国平均より2.3ポイント低い。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・話し手、聞き手、それぞれの立場を明確にし、日常の場面における共通のテーマを課題として、自らの思いや意見を伝え合う機会を多く設定する。

【書くこと】

- ・目的や意図に応じて、本、新聞、雑誌、パンフレットなどの資料を使って、調べたり、編集したりする学習活動を取り入れる。

【読むこと】

- ・相手によく伝わるように、文章の構成、表現、書き方を工夫させ、相手意識を明確にした書き方ができるように指導する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・学習した語句を、日常生活でも進んで、適切に使用できるように、短作文指導などを取り入れ、継続的に取り組んでいく。

【その他】

- ・学習情報センターとして、学校図書館を計画的に利用し、学校図書館司書と連携しながら、言語活動の充実を図っていく。

2 算数

全体的な傾向

- ・算数A（知識）の平均正答率は全国平均より高い。正答数の分布状況は全国と比べ、14問と18問、19問（74%と95%、100%）の割合が高い。
- ・算数B（活用）の平均正答率は全国平均より高い。正答数の分布状況は全国と比べ、10問～13問（77%～100%）の割合が高い。

<分類・区分別集計結果>

【算数A】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	8	88.6	81.5	80.2
	量と測定	4	74.4	68.1	68.3
	図形	3	79.3	75.7	72.5
	数量関係	4	88.1	84.2	83.4
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	8	92.2	87.8	86.2
	数量や図形についての知識・理解	11	78.1	71.4	70.5
問題形式	選択式	8	76.2	68.9	68.2
	短答式	11	89.7	85.1	83.6
	記述式	0			

【算数B】

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	3	59.2	50.8	48.3
	量と測定	7	63.5	56.6	56.0
	図形	3	85.6	80.3	79.3
	数量関係	7	64.2	56.2	54.9
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	55.9	48.2	46.8
	数量や図形についての技能	1	82.8	77.7	76.1
	数量や図形についての知識・理解	4	84.1	77.7	77.2
問題形式	選択式	4	81.7	75.0	73.8
	短答式	4	73.3	63.6	61.9
	記述式	5	49.3	43.9	43.2

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と計算】

- A 領域の平均正答率は88.6%で全国平均より8.4ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は59.2%で全国平均より10.9ポイント高い。

【量と測定】

- A 領域の平均正答率は74.4%で全国平均より6.1ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は63.5%で全国平均より7.5ポイント高い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は79.3%で全国平均より6.8ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は85.6%で全国平均より6.3ポイント高い。

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は88.1%で全国平均より4.7ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は64.2%で全国平均より9.3ポイント高い。

算数に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 算数に関する質問のほとんどの項目において、肯定的な回答の割合は全国平均と比べて高い。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均とほぼ同じ。
- 「普段の生活で、身のまわりにある割合の表現について、実際に計算したことがありますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均と比べて1ポイント低い。

指導改善のポイント

【数と計算】

- ・ 小数や分数の計算処理力を高めるために、1時間の授業の中に計算練習の時間を意図的・継続的に取り入れていく。

【量と測定】

- ・ 単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解できるように、数直線や面積図を用いて解決の見通しを立てる活動の充実を図る。

【図形】

- ・ 図形を観察して特徴を捉える活動や、デジタル教科書を活用した活動の充実を図り、問題解決の意欲を高めるよう、指導を工夫する。

【数量関係】

- ・ 二つの数量の関係を数と言葉を用いて表すようにし、比例の特徴について理解を深められるよう、指導を工夫する。

【その他】

- ・ ノート指導の充実を図り、図表や言葉の式を用いながら問題解決の道筋を立てることのできる力を高めていく。
- ・ 少人数学習、T・Tなどを取り入れながら、授業形態を工夫し、個に応じた指導の充実を図る。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

＜傾向＞

- 朝食や起床時刻に関する質問は、全国とほぼ同じ傾向を示している。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均より高く、自己肯定感が高いことが伺われる。
- 「将来の夢や目標をもっていますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均よりやや低い。将来に対する姿はまだ漠然としている様子が伺われる。
- 睡眠時間は、全国と同じ傾向で、個人差が大きい。
- テレビ・ビデオ・DVDの視聴時間は全国と同じ傾向が見られる。テレビゲームを行う時間は全国より短い傾向にある。
- 普段（月～金曜日）の1日当たりの勉強時間は全国より短い傾向が見られ、学校が休みの日（土・日曜日）の1日当たりの勉強時間は全国より長い傾向が見られる。
- 「家で、学校の授業の予習をしていますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均よりやや低く、「家で、学校の授業の復習をしていますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均より高い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」「学校で友達に会うのは楽しいとおもいますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均より高い。
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいとおもいますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均より高く、自分自身を高め、よりよく成長させたいとの思いが伺われる。
- 「普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」の質問は、肯定的な回答の割合が全国平均より低い。